

■葛西善蔵 破滅型の私小説作家の典型的生涯を送り、独特の明るさを持つ作品を遺して、早世した。

かさいぜんぞう

国民之友始・1887＝ 青森県生弘前で、米の仲買業葛西宇一郎の長男に生まれる。母ひさ。姉2人。

帝国憲法発布1889＝ 2歳：家が没落し、一家で北海道寿都に移住。弟が誕生。

転籍を重ねて、五所川原尋常小学校に入学。

郡司千島探検1893＝ 6歳：碓ヶ関の母の生家に転籍し、碓ヶ関尋常小学校に転校。

日清戦争始・1894＝ 7歳：

白馬会・・・1896＝ 9歳：

八幡製鉄始・1897＝10歳：同校補修科に進み、

Bushidou・・・1899＝12歳：卒業。五所川原の親戚の質屋で働き、蔵にあった馬琴などを読むうち、小説家を志すようになり、

ピアノ国産化・1900＝13歳：青森市の便利屋の小僧を経て、

教科書疑獄・1902＝15歳：上京。新聞売りしながら夜学に通うが、母が病気となって帰郷、まもなく母が死去。

日比谷公園・1903＝16歳：北海道に渡り、車掌、営林署、金鉱等で働いた後、

日露戦争終・1905＝18歳：再び上京。哲学館大学(東洋大学)第二科普通講習科に入学。下宿先の染谷そめを知る。

満鉄発足・・・1906＝19歳：無断欠席で除名となり、大学部二科を聴講しながら、諸作家作品を読む。

韓国反日暴動1907＝20歳：東洋大学専科2年に編入。鎌倉で「商人宿」を書く。

アヲキ創刊・1908＝21歳：青森県浪岡の平野つとと結婚。単身上京、徳田秋声の門をたたき、早稲田大学の英文科に聴講。そめと飲んで酔いつぶれ警察に保護される。

伊藤博文暗殺1909＝22歳：創作すべく、大洗海岸に滞留。長男が誕生に帰郷せずも、一作もできず、全てを犠牲に文芸専念決意し、

韓国併合・・・1910＝23歳：鎌倉で思索にふけるうち、岳父に連れられて妻子が上京したため、東京に一家を構えるが、

大逆事件判決1911＝24歳：家計破綻して、妻子を帰郷させた後、妻が長女を出産。

明治天皇没・1912＝25歳：*舟木重雄・広津和郎らと、同人雑誌{奇蹟}を創刊し、「哀しき父」を発表して好評、

大正政変・・・1913＝26歳：「悪魔」などの秀作を発表する、不遇で、廃刊。

第一次大戦始1914＝27歳：妻が実家で次女を出産。梗概ものを書いて、家計支える。

21ヶ条要求・1915＝28歳：離婚の手紙するも、帰郷して妻子と住んだ後、上京。宇野浩二を知る。

民本主義・・・1916＝29歳：一家をあげて上京。生活のため、米穀仲買店に勤務。

ロシア革命・1917＝30歳：金策で帰郷した妻は、以後、東京に戻らず。「贖物」を発表。

本格政党内閣1918＝31歳：妻子は妻の実家に預ける。*{早稲田文学}に「子をつれて」を発表、ようやく文壇の注目をひくに至る。

ベルサイユ条約・1919＝32歳：鎌倉建長寺内の宝珠院に転宿。「子をつれて」を出版し、地位確立。

大暴落・・・1920＝33歳：*創作集「馬糞石」出版。東洋大学からも得業の称号受ける。

原敬首相暗殺1921＝34歳：啖血。「贖物」出版。

水平社結成・1922＝35歳：父が死去。発熱続き、「肺浸潤と診断される。「哀しき父」出版。「不良児」、

関東大震災・1923＝36歳：「悪魔」出版。宝珠院で大震災に遭遇し、上京。後を追って来た浅見ハナと本郷の旅館で同棲。

護憲三派圧勝1924＝37歳：口述筆記となる。「蠢く者」「椎の若葉」「湖畔手記」。亡父三回忌に、ハナを同伴し帰郷。

治安維持法・1925＝38歳：ハナに三女が誕生。世田谷三宿に転居。「生活がすすんで行く。「死児を産む」、

金融恐慌・・・1927＝40歳：2度入院。*「酔狂者の独白」。胸部疾患が進み、

共産党事件・1928＝41歳：ハナに四女が誕生、「葛西善蔵全集」第一巻刊行後、新聞に絶望と報道されてまもなく、没した。